

T I ブルー使用法

(本品は 1 ml の原液です)

TEM 用

***キャップを外さず、中央のゴムの部分に注射針を刺して液を取り出す事も可能です。**

- ・超薄切片染色には、まず 10 倍程度に希釈（水もしくは 50%メタノール）してお試し下さい。染色状況によっては原液のままか数倍、もしくは 10 倍以上等適宜希釈してお使い下さい。
- ・使用法は基本的には酢酸ウランと同様です。
- ・染色時間は 10 倍希釈液の場合 10 分程度を目安としていますが、希釈倍率や染色状況により時間の調整をしてください。一般的な観察には鉛との二重染色をお勧めします。
- ・ネガティブ染色には、原液のままお使い下さい。染色状況により、適宜希釈してお試し下さい。
- ・試料によりましては、ネガティブ効果が十分得られない場合もあります。

SEM 用

- ・低真空観察試料を対象にしております。
- ・SEM 用には、基本的には希釈せず原液のままの濃度でお使い下さい。
- ・原液はほぼ pH3.0 ですが、市販のアンモニア水を微量（使用する原液量の 1/20 程度）加えて **pH9.0 以上** してお使い下さい。試料を約 1 分～20 分（試料により異なります）浸漬し、その後約 1 分～2 分の水洗後、余分な水を除去したら観察が可能です。
- ・なるべく使用する直前にアンモニア水を加え、溶液は当日使い切ることをお勧めします。
- ・観察には反射電子モードをお勧めします。

参考文献： 1) Tanaka.K.& Inagaki.K..JElectron Microsc 42: 255 (1993)

2) Inaga.S.et al.. Arch Histol Cytol 70(1): 43-49 (2007)

3) Inaga.S.et.al., Arch Histol Cytol 72(2):101-106 (2009)

*** T I ブルーの廃液は、重金属扱いとして廃棄処理して下さい**

日新 EM 株式会社